

コンピュータによる中国語教材提示

福井大学教育学部 村上 公一

コンピュータによる中国語提示教材を作成し、従来型L1L2教室でスクリーンに映し出し、「文字」と「音声」を同時に提示しながら進める授業を試みた。本稿では作成したコンピュータ教材の概要、それをを用いた授業の方法及び受講者アンケートによる授業評価について報告する。今回作成した教材は、初歩的なものだが、学生には新鮮なものとして肯定的に受けとめられた。また、教材をスクリーンに映し出すことにより、学生の顔が前を向くようになり、授業に対する意識の集中にも効果があることがわかった。これは、コンピュータ教育環境がまだあまり整備されていない現状の中で、一斉授業に於ける現実的かつ効果的なコンピュータ利用法である。

キーワード：中国語教育、マルチメディア教材、CALL

1. はじめに

日本語話者が中国語を学習する際の最も大きな問題は「文字」と「音声」の一体化が難しいという点である。コンピュータの利用はこの問題を一気に解決する可能性がある。つまり、コンピュータを利用すれば「文字」情報と「音声」情報を同時にしかも繰り返し提示する事が可能であり、学習者はそれらを一体化して記憶に定着させる事ができるからである。

また、コンピュータには、利用者が自由に情報を引き出し、コンピュータと対話する形でその情報の質を高めていく事ができるという利点もある。これにより、学習者の個人の目的やレベルに応じて自由に、発展的に学習する事ができるわけだが、こちらは教室での一斉学習の形での利用よりは、コンピュータ教室や自宅での自主学習の形での利用の方がより効果的であろう。

今回、コンピュータによる教材提示用ソフト『電腦12回で学ぶ中国語Ⅰ』を作成し、ビデオプロジェクタでスクリーンに映し出し、「文字」と「音声」を同時に提示する授業を試みた。また、その教材提示用ソフトに練習問題を加えた自習用ソフトも同時に作成し、コンピュータ自習室（マルチメディア室）で学生が自由に利用できるようにした。

本稿では、今回作成したコンピュータ教材の概略、それをを用いた授業の方法及び受講者アンケートによる授業評価について報告する。

2. 『電腦12回で学ぶ中国語Ⅰ』の概要

2.1 目次及び発音編

1994年度から共通教科書として使用している『12回で学ぶ中国語Ⅰ』（村上公一、小川

郁夫, 白帝社, 1994) を素材として, ハイパーカードを用いて作成した。

まず初めに目次のページを開く。(図1)

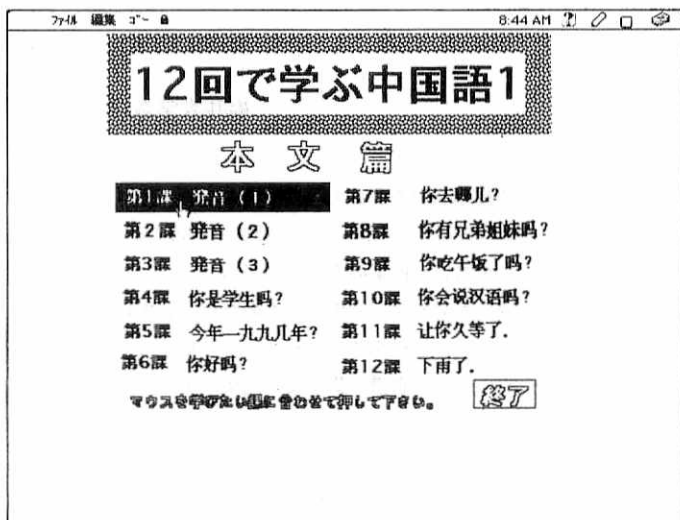


図1

マウスを学習する課に合わせてクリックすれば, その課の「本文」を画面に出すことができる。

(図2)

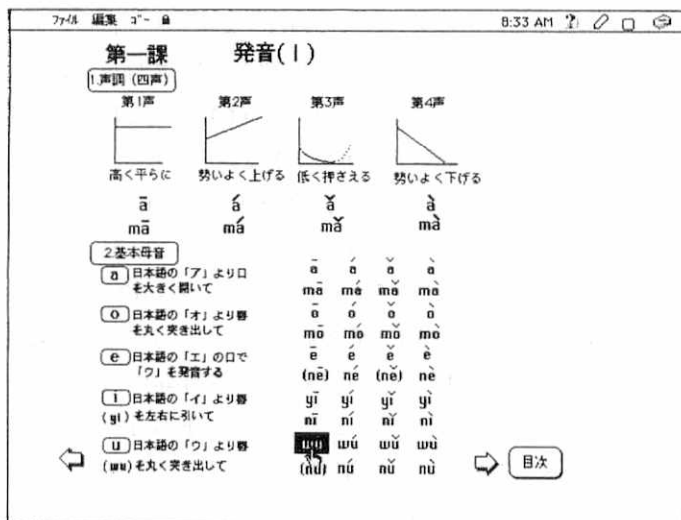


図2

発音編 (第1課～第3課) は教科書のページを殆どそのままパソコンの画面に移した。ピンイン部分をクリックするとスピーカーから中国語の発音が出る。また, □枠の部分 (1. 声調 (四声), 2. 基本母音, a など) をクリックすると, そのグループが連続して発音される。音声は全てテキスト準拠のカセットテープから取り込んだ。

発音されている間, その文字の白黒が反転しているので, 音声と文字が一体のものとして提示されることになる。図2は「wū」を発音しているところである。

2. 2 文 法 編

第4課以降は発音編とは異なり，[本文] [ポイント] [練習] [新出単語] に画面が分かれています。

目次で学習する課をクリックするとまずこの「本文」のページになる。(図3)

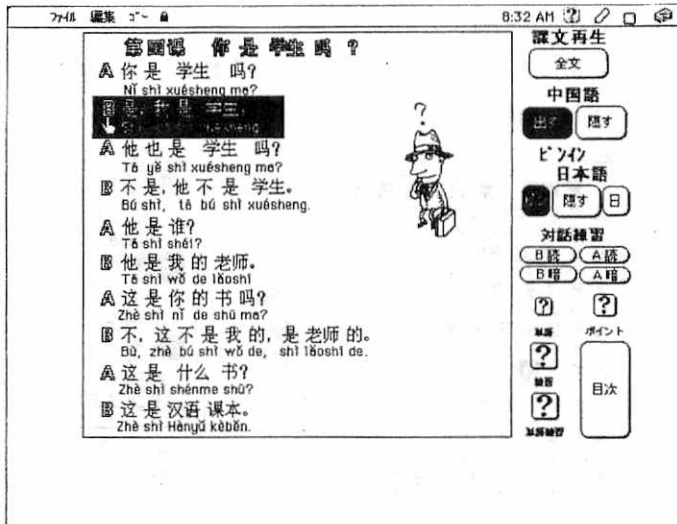


图 3

任意の行をクリックすると、その行が発音される。発音編同様、発音されている部分は反転している。図3では「是，我是学生。」が発音されている。

右上の課文再生の全文をクリックすると本文全てを中国語で発音する。中国語の隠すをクリックすると、中国語の漢字部分が隠れ、出すをクリックすれば再び表示される。ピンイン日本語のピンはピンインを、日は日本語訳を表示するためのボタンである。隠すをクリックすれば、漢字の下の部分の表示は全て隠れる。図4は漢字部分を隠し、日本語訳だけを表示してある。

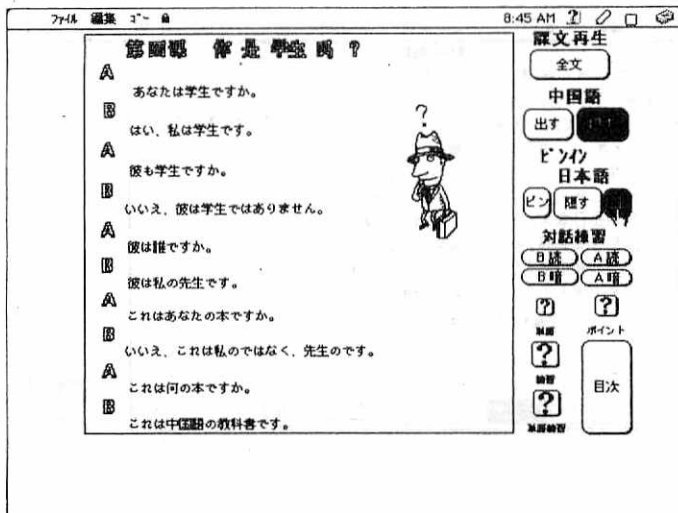


图 4

また、対話練習のB読をクリックすると、コンピュータがAを読み、学習者がBを読むという対話練習ができる。B暗にすると、Bの部分の画面表示が消え、コンピュータの読むAにあわせてBを暗唱するという形の対話練習ができるようになっている。A読A暗は、その逆の練習。いずれの場合も、コンピュータが読んでいる箇所と学習者が読む箇所が随時反転表示されていくので、どの部分の対話が行われるかの確に分かる。

単語?をクリックすると男の人の絵の下にフィールドが表示される。この状態で、任意の単語をクリックすると単語が発音され、同時にその単語の品詞と意味がフィールドに表示される。(図5)

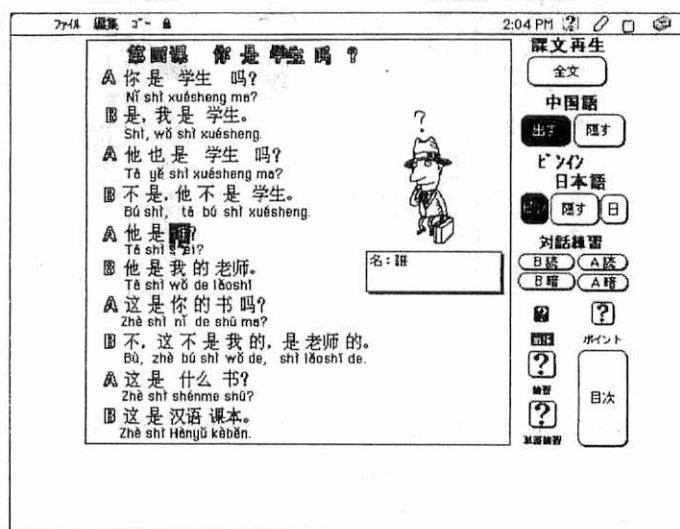


図 5

ポイント?をクリックすると、その課の[ポイント]の画面に変わる。[ポイント]画面でも下の方にあるボタンをクリックすることにより、[本文]と同じように音声提示や画面表示の変更ができる。(図6)

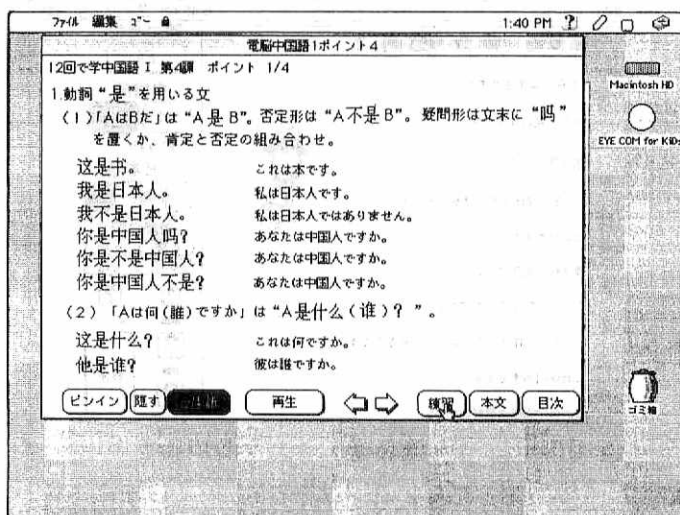


図 6

「ポイント」の練習または、「本文」の練習？をクリックすると、「練習」の画面に変わる。全て聞き取りの問題で、自己採点できるようになっている。採点すると、点数が表示され、同時に誤った回答が消えるようになっている。(図7)

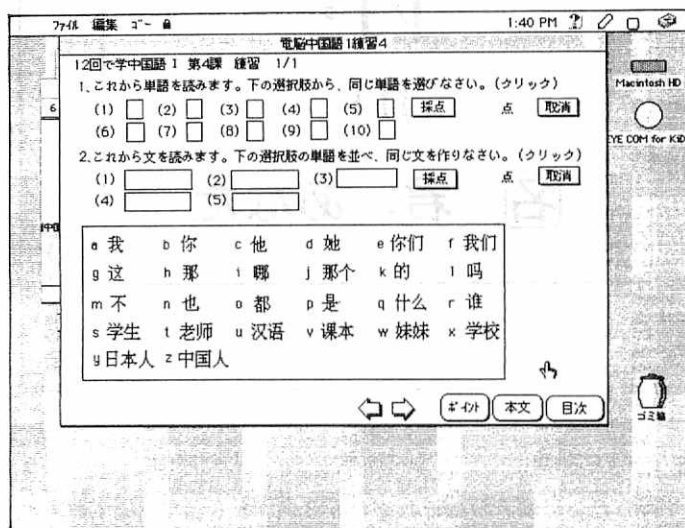


図7

「本文」の単語練習？をクリックすると、次の画面が表示される。(図8)
新出単語が様々な方法で提示されるようになっている。○一般では、単語カードが音声と同時に1枚ずつ表示され、○発音では、初めにピンインと音声が表示され、暫くして漢字と意味が表示される。発音から、漢字や意味を導き出す練習ができる。○漢字、○意味もそれぞれ、漢字や意味からその他のものを導き出す練習用である。図9は漢字、ピンイン、意味ともに表示された普通のカード。

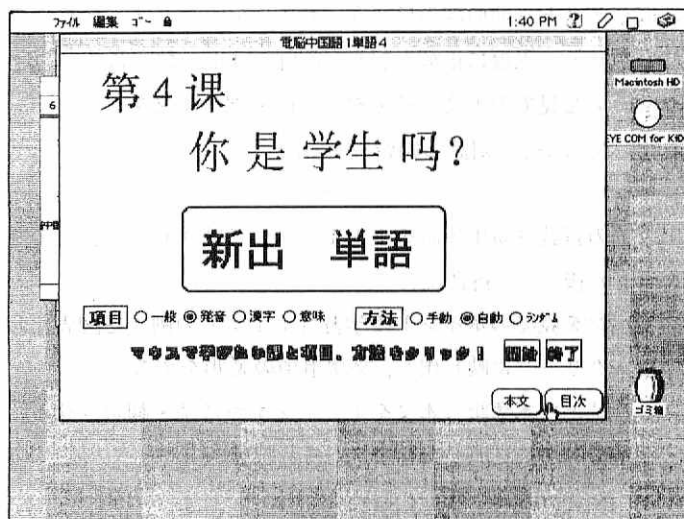


図8

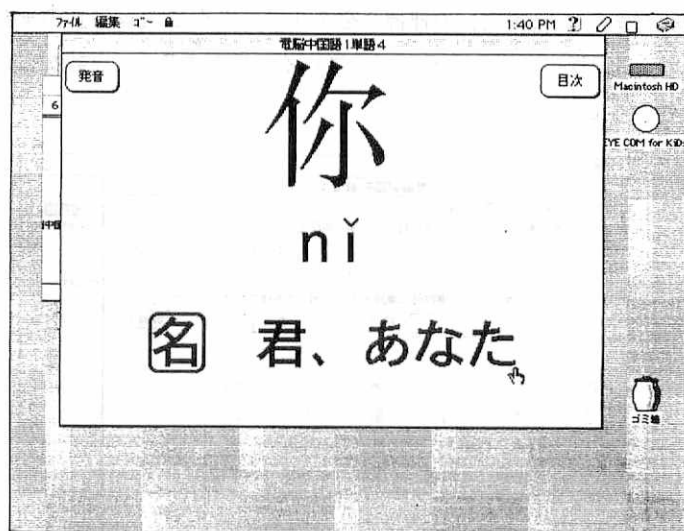


図 9

3. 授業の方法

実験は2クラスで行った。受講者数はそれぞれ53名、56名で、いずれも教育学部1年の学生である。教室は大視演（LL80席、マルチスキャンプロジェクタ、音響装置、教材提示用パーソナルコンピュータ＜Macintosh＞）を利用した。

授業は毎回ほぼ以下の表のように行った。網掛け部分がコンピュータの画像をスクリーンに提示しながら行ったものである。

	学 習 内 容	分
復 習	①聞き取りテスト（前の課の単語5、本文5を読み上げ、B6片の紙片に書かせる。黒板に正解を記し、各自で訂正。数回音読。） ②スクリーンを見ての本文音読・対話（前の課の本文をスクリーンに映し出して音読し、対話の練習をする。）	20
新 し い 課 の	③新出単語の音読（新出単語を1人1つずつ音読させる。発音の間違いを直した後で、一斉音読。） ④スクリーンを見てのポイントの学習（ポイントの例文を図表化したものをスクリーンに映し出し、文法事項の説明をする。） ⑤本文の音読と日本語訳（本文を1人1文ずつ音読・翻訳させる。発音・翻訳の間違いを直した後で、一斉音読。）	45

学 習	⑥スクリーンを見ての本文音読・対話（本文をスクリーンに映し出して音読し、対話の練習をする。） ⑦ヘッドホン・マイクを使った対話練習（ペアになり、スクリーンを見ながら対話の練習をする）	15
ま と め	⑧自由質問5対話（既習の学習内容を踏まえて、各ペアでお互いに5個ずつ中国語で問答をする。）	10
宿 題	⑨カセットテープ録音（本文・ポイント・練習問題の答をカセットテープに録音し翌週提出する。）	

②では、前の課の復習として、図3の画面をスクリーンに映し出し、初めに1文ずつコンピュータの発音に従って発音練習をする。続いて、対話のB読、A読によって、コンピュータと対話練習をする。次に中国語の隠す、ピンイン日本語の日をクリックし、図4の画面を映し出し、今度は日本語訳を見ながら、対話のB読、A読による対話練習を行う。

④では、ポイントの例文をスクリーンに映し出して学習する。当初は、図6を表示しながら文法の説明をしていたが、文字の見易さ、説明のし易さを考えて、第5課からは図10のように、大きな文字を用い、図表化したものを用いた。

第5課 ポイント	
[主語]	[述語]
今年 Jīnnián	一九九六年。 yī jiǔ jiǔ liù nián.
今天 Jīn tiān	五月 二十七号。 wǔ yuè èrshíqī hào.
今天 Jīn tiān	星期一。 xīngqīyī.
现在 Xiànzài	一点。 yí diǎn.
我 Wǒ	十八岁。 shí bā suì.
本文	

図10

⑥では、当日学んだ本文を記憶に定着させるために、発音練習を繰り返し行う。方法は、②とほぼ同じ。

4. 受講者アンケート

夏休み直前の授業時（第12課終了時）に授業に関するアンケートを行った。（資料参照）

スクリーン表示については、②及び⑥の画面が「見えなかった」「あまり良く見えなかった」が63%、文字を大きくした④でも44%と多くなっている。これに伴い、スクリーンを見ることによる疲れも、「疲れた」「かなり疲れた」が34%とかなり多かった。この理由としては、文字の大きさと、スクリーン利用時の教室内の明るさを指摘する者が多かった。音声については、「良く聞こえた」「かなり良く聞こえた」が96%で、比較的是っきり聞こえていた。

コンピュータによる教材提示については「効果的だった」「かなり効果的だった」が63%で、その理由としては「どこを学んでいるかが良く分かる」「集中できる」「何度も繰り返して見たり聞いたりできる」「板書する時間が無く効率的」「新鮮」などが多かった。「あまり効果的でなかった」「効果的でなかった」の理由としては、「文字が見にくい」を挙げる者が圧倒的に多く、「教科書を見ていても同じ」という意見もあった。後期での継続使用については、「希望する」「かなり希望する」が72%あった。

授業全体の流れの中に置いてみた場合の評価は、②で79%、④で86%、⑥で68%が肯定的な評価を下していた。しかし、従来型のもの（①、③、⑤）がともにそれ以上（いずれも90%前後）であることを考えると、受講者の評価は必ずしも高くない。②で△または×を記した者の73%（15名中の11名）、④では67%（9名中の6名）、⑥では86%（21名中の18名）は、問2または問3でそれぞれの画面が「見えなかった」「あまり良く見えなかった」と回答しており、画面の見にくさが否定的評価につながっていることがわかる。

アンケートの結果からみると、今回の試みはかなり肯定的に受け入れられている。また、今後の問題点は次の3点に集約される。

- 1, 文字を見やすくすること（大きさ、字体、スペースの取り方の工夫）
- 2, 教室内の明るさの調整
- 3, 提示内容と教科書との関係の整理

5. おわりに

最近、中国語教育でもコンピュータ教材が徐々にではあるが開発されてきている。また、ハード面でも環境が着実に整備され、一般教育中国語の一般的クラスサイズに見合った40～50台のコンピュータが設置された教室も出現している。しかし、外国語教育専用のコンピュータ教室が整備されている大学はまだ限られている。これら先進的な大学でも、中国語クラスが10クラス以上もある場合には、当然コンピュータ教室の利用が難しく、ましてや、英語など他の外国語科目との競合もあり、コンピュータ教室で全クラス授業をすることは、たとえ週2コマの内の1コマであっても不可能であろう。

このような環境下にあって、積極的なコンピュータ利用を目指すなら、当面は従来型ＬＳ教室や、普通教室での利用の可能性を探っていくのが現実的であろう。

今回の試みは、一斉授業でのコンピュータ利用は教材提示に限り、個別のコンピュータでの学習は自習時間あるいは自宅での自己学習として位置づけるという考えを出発点にしている。教材提示の方は半年間実際に試みることができたが、個別のコンピュータでの自習の方は、空き時間に自由に利用できるマルチメディア室の１０台のコンピュータに自習教材を入れておいたものの、利用者は数名しかいなかった。これは、１年次の学生の殆どはコンピュータを動かした経験が無く、授業中にも自習用コンピュータ教材の使用方法を解説する機会を設けなかったことによる。一斉授業でのコンピュータ利用と個別コンピュータでの自習をいかに有機的に結び付けるかが今後の大きな課題である。

一斉授業でのコンピュータによる教材提示により、これまで下を向いていた学生の顔が前を向くようになった。外国語の教育・学習でこれまで欠けていたのは、教える者と学ぶ者が互いに前を向いてお互いに目を交わしながら授業を進めるというありかたである。特に音声によるコミュニケーションを重視する授業には必要不可欠なものであろう。学生の視線を机上の教科書から解放するコンピュータによる教材提示はこの点でも学習を活性化させる有効な手段である。

Presentation of Chinese Study Materials by Personal Computers

MURAKAMI Kimikazu

Key words : chinese language education, multimedia, CALL

中国語1a (村上) 授業アンケート

96.7

今回初めて、コンピュータを用いた授業を行いました。いかがでしたでしょうか。感想をお聞かせください。みなさんの意見を参考に、少しでも良い方向に変えていきたいと考えています。

該当する番号に○を付けて下さい。()は自由に記述して下さい。

<始めにスクリーン表示についてお尋ねします>

- あなたはいつも教室の何列目に座っていましたか
1、前の方 2、真ん中ぐらい 3、後ろの方 4、その他()
- スクリーンに映った本文の文字は良く見えましたか。
1、良く見えた 2、かなり良く見えた 3、あまり良く見えなかった
4、見えなかった 5、その他()
- スクリーンに映ったポイント(水色表示)の文字は良く見えましたか。
1、良く見えた 2、かなり良く見えた 3、あまり良く見えなかった
4、見えなかった 5、その他()
- 中国語の音は良く聞こえましたか。
1、良く聞こえた 2、かなり良く聞こえた 3、あまり良く聞こえなかった
4、聞こえなかった 5、その他()
- スクリーンを見ることで、普通の授業より眼が疲れましたか。
1、疲れた 2、かなり疲れた 3、あまり疲れなかった
4、疲れなかった 5、その他()
- コンピュータをスクリーンに映して授業を行うのは効果的でしたか。
1、効果的だった (理由:)
2、かなり効果的だった (理由:)
3、あまり効果的でなかった (理由:)
4、効果的でなかった (理由:)
5、その他(理由:)
- 後期(2a)もスクリーンを使った授業を希望しますか。
1、希望する 2、かなり希望する 3、あまり希望しない
4、希望しない 5、その他()

* スクリーンを使った部分について、何か気が付いたことがあったら、お書き下さい。

<次に授業の内容、構成についてお尋ねします>

授業の構成は、毎回以下に行っていました。

- 前の課の復習(①聞き取りテスト ②スクリーンを見ての本文音読、対話)
 - 新しい課の学習(③新出単語の音読 ④スクリーンを見てのポイントの学習 ⑤本文の音読と日本語訳 ⑥スクリーンを見ての本文音読、対話 ⑦ヘッドホン、マイクを使った対話練習)
 - まとめの学習(⑧自由質問5対話)
 - 宿題(⑨カセットテープ録音)
- 上の①～⑨について、その内容、構成について良い(◎)、かなり良い(○)かなり悪い(△)、悪い(×)、その他(?)をそれぞれ記入して下さい。
1. 前の課の復習
①聞き取りテスト () (理由:)
②スクリーンを見ての本文音読、対話 () (理由:)
2. 新しい課の学習
③新出単語の音読 () (理由:)
④スクリーンを見てのポイントの学習 () (理由:)
⑤本文の音読と日本語訳 () (理由:)
⑥スクリーンを見ての本文音読、対話 () (理由:)
⑦ヘッドホン、マイクを使った対話練習 () (理由:)
3. まとめ学習
⑧自由質問5対話 () (理由:)
4. 宿題
⑨カセットテープ録音 () (理由:)
 - 授業全体の内容、構成について
1、良い (理由:)
2、かなり良い (理由:)
3、かなり悪い (理由:)
4、悪い (理由:)
5、その他 (理由:)

* 授業の内容、構成等について、何か気が付いたことがあったら、お書き下さい。

資料 2. <アンケート調査結果 総回答数 97>

質問	選択肢 1	選択肢 2	選択肢 3	選択肢 4	選択肢 5
1	32 (33%)	39 (40%)	26 (27%)	0 (0%)	
2	20 (21%)	9 (9%)	56 (58%)	7 (7%)	4 (4%)
3	41 (42%)	10 (10%)	35 (36%)	8 (8%)	3 (3%)
4	71 (73%)	22 (23%)	2 (2%)	0 (0%)	2 (2%)
5	22 (23%)	11 (11%)	43 (44%)	17 (18%)	4 (4%)
6	44 (45%)	17 (18%)	23 (24%)	4 (4%)	7 (7%)
7	54 (56%)	16 (16%)	17 (18%)	2 (2%)	7 (7%)
8①	53 (55%)	34 (35%)	4 (4%)	3 (3%)	2 (2%)
②	34 (35%)	43 (44%)	7 (7%)	8 (8%)	5 (5%)
③	46 (47%)	45 (46%)	1 (1%)	2 (2%)	3 (3%)
④	33 (34%)	50 (52%)	5 (5%)	4 (4%)	4 (4%)
⑤	46 (47%)	41 (42%)	5 (5%)	1 (1%)	3 (3%)
⑥	22 (23%)	44 (45%)	11 (11%)	10 (10%)	7 (7%)
⑦	38 (39%)	46 (47%)	6 (6%)	3 (3%)	4 (4%)
⑧	15 (15%)	35 (36%)	23 (24%)	6 (6%)	17 (18%)
⑨	29 (30%)	36 (37%)	13 (13%)	9 (9%)	7 (7%)
9	61 (63%)	26 (27%)	1 (1%)	1 (1%)	3 (3%)